

土木学会教育企画・人材育成委員会
男女共同参画小委員会第一期活動報告書

2008年6月

This page is intentionally left blank.

目次

1. はじめに.....	1
1.1 第一期の活動を振り返って	1
1.2 男女共同参画を取り巻く状況	1
2. 活動の概要.....	5
2.1 活動の状況	5
2.2 土木学会法人会員アンケート	7
2.3 土木学会全国大会研究討論会	11
2.4 その他	12
3. 提言.....	15

男女共同参画小委員会第一期委員名簿 (2006年6月～2008年5月)

氏名		所属
委員長	小松登志子	埼玉大学 大学院理工学研究科
副委員長	日下部 治	東京工業大学 大学院理工学研究科 土木工学専攻
幹事長	岡村 美好	山梨大学 大学院 医学工学総合研究部
幹事	桑野 玲子	東京大学 生産技術研究所 都市基盤安全工学研究センター
幹事	昌子 住江	関東学院大学 工学研究科 工学部社会環境システム工学科
	柏倉 志乃	大成建設(株) 秘書部秘書室
	小路 泰広	国土交通省 国土技術政策総合研究所 危機管理技術研究センター
	堀越 研一	大成建設(株) 技術センター土木技術研究所地盤・岩盤研究室土質チーム
	松本 香澄	武蔵村山市 都市整備部
	山田 菊子	小樽商科大学 ビジネス創造センター UX 研究部門
	米山 賢	(株)建設技術研究所 東京本社 社会システム部防災室

注:所属は2008年5月現在.

This page is intentionally left blank.

1. はじめに

1.1 第一期の活動を振り返って

2004年に暫定的な委員会として発足した「ジェンダー問題検討特別小委員会」は、2006年6月に名称を「男女共同参画小委員会」と変更し、常置の委員会となった。

2006年度からは、「女性土木技術者のビジョンづくり」をテーマに、小委員会内に以下の3つのWGを発足させ、9名の委員（男性4名、女性5名）で委員会活動の活性化を図ってきた。

広報WG：外部との対応および広報・男女共同参画学協会連絡会 および標記連絡会関連のシンポジウムへの対応。

企画WG：土木学会内での活動への対応・研究討論会や勉強会の開催。

調査WG：女性土木技術者増加に対する課題の把握や女性比率の目標値の設定の有無などに関するアンケート調査などの調査研究。

男女共同参画学協会連絡会：応用物理学会、日本化学会、日本物理学会などが中心となり、学協会間での連携協力を行いながら、科学技術の分野において、女性と男性がともに個性と能力を発揮できる環境づくりとネットワーク作りに取り組んでいる。2002年設立。加盟学協会37、オブザーバー加盟学協会29。土木学会はオブザーバー加盟。

1.2 男女共同参画を取り巻く状況

(1) 国等の取り組み

男女共同参画小委員会としての第一期活動期間であった2006年と2007年は、日本の男女共同参画が大きく前進した時期であった。

2006年には、施行されてから20年が経った男女雇用機会均等法が改正され、これまでの女性差別禁止法から男女双方の性差別禁止法となった。これに伴い、女性を主体とした各種の支援体制が男性をも対象とするようになり、男女ともに仕事と家庭の調和を図るという「ワークライフバランス」がキーワードとして、大きく取り上げられるようになった。

土木分野に関連しては、労働基準法が改正されて女性の坑内労働に関する規制が緩和され、女性土木技術者の坑内での管理・監督業務が可能となった。これにより、法律上は一般の女性土木技術者も男性技術者と同じ業務を実施することが可能となった。

一方、2006年度から2010年度を計画年度とする「第三期科学技術基本計画」(2006年3月28日閣議決定)²⁾では、科学技術システムの改革として女性研究者の活躍促進を示しており、期待される女性研究者の採用目標として、自然科学系全体で25%（理学系20%、工学系15%、農学系30%、保健系30%）を掲げた。これに対する具体的な取り組みとして、文部科学省では2006年度から女性研究者育成支援モデル事業や女子中高生理系進路選択支援事業を実施している。また、日本学術振興会では、出産・育児による研究中断者の復帰を支援する「特別研究員-RPD」事業（Restart Post Doctoral Fellowship）を2006年度に創設し、各年度、約40名の研究員を採用するとした³⁾

(2) 土木学会の状況

土木学会正会員と学生会員における女性数を表1.1に示す。2007、2008年と、正会員の女性数は増加傾

向にある。なお、2008年3月末におけるフェロー会員は2,297人でそのうち女性は4人である。学生会員の女性数は年によって変動が大きい増加傾向にあるとは言えないが、2008年は学生会員の1割以上となっている。

会員種別の女性比率を図-1.1に示す。2008年3月で正会員の女性比率はようやく2%を超えた。学生会員は2008年には11.9%であるが、2007年は6.6%と低いことから、来年がどのような数値になるか気になるところである。前述の第三期科学技術基本計画では期待される女性研究者の採用目標として工学系15%という数値を掲げているが、土木学会の女性会員すべてが研究者だとしても目標値との差は大きく、現状では学生会員がそのまま正会員に移行してもこの目標値は達成できない。

表-1.1 土木学会会員種別人数

会員種別		2004年()	2006年	2007年	2008年
正会員	総数	30,761	31,260	30,319	29,782
	女性数	520	474	549	628
学生会員	総数	5,473	5,071	5,497	5,699
	女性数	502	463	363	680

2004年は4月末、その他は3月末のデータである。

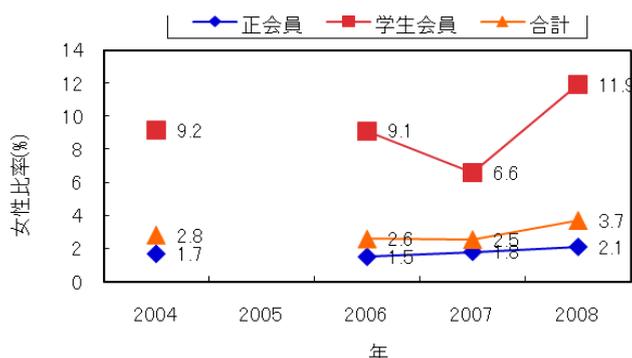


図-1.1 女性比率の経年変化

2008年3月における年齢別会員数と女性比率を図-1.2に示す。ここでの会員数とは学生会員数と正会員数の合計である。年代別の会員数は30～34歳と定年を迎える60歳以上が少ないが、年代による大きな変化はない。しかし、女性比率は20～24歳をピークに減少し、35歳以上になると5%以下になる。

2007年8月における土木学会の役員は会長1名、副会長4名、理事25名であるが、女性の占める比率は0%である。また、委員会65のうち、女性委員のいる委員会は25である。

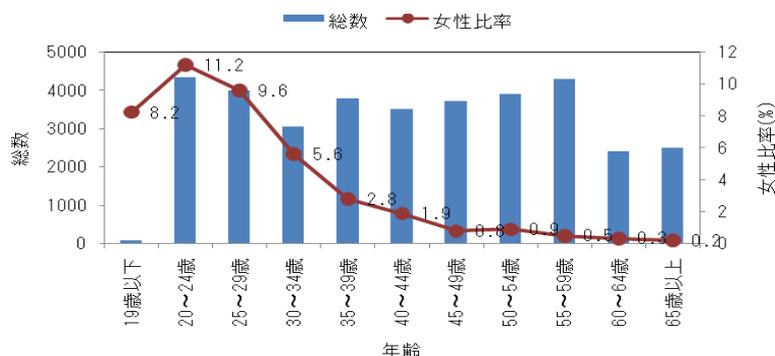


図-1.2 年齢別の会員数と女性比率 (2008年3月)

2008年5月に土木学会が発表したJSCE2010⁴⁾には、重点目標の一つとして土木界における男女共同参画の推進が示された。そこでは、女性比率の増加とともに男女ともに仕事を継続できる環境づくりを目標としている。これはジェンダー問題検討小委員会および男女共同参画小委員会のこれまでの活動成果の一つとして喜ぶべきことであるが、明確な目標が示されたことで委員会活動もこれまで以上に重要なものとなっている。

表-1.2に、JSCE2010における関連部分を抜粋する。

表-1.2 JSCE2010における男女共同参画に関連する記述(1/2)

<p>1. JSCE2010 策定方針と策定プロセス (略)</p> <p>2. JSCE2010 策定に当たった現状認識と土木学会の重点課題</p> <p>2.1 現状認識</p> <p>(3) 土木界・土木技術者</p> <p>わが国の土木界・土木技術者が、公共事業をはじめとする社会基盤整備を通じて国土の建設と管理に貢献したことは紛れもない事実である。(中略)</p> <p>定年延長や継続雇用により問題は緩和される傾向にあるとはいえ、技術者を取り巻く環境は、団塊世代の一斉退職による技術者不足、技術継承の断絶といったいわゆる2007年問題を内包している。高等教育における理系離れ、特に土木離れも指摘されて久しく、<u>男女共同参画も考慮して、女性を含めた若手技術者の安定的確保および人材育成が重要な課題となっている。</u>(以下略)</p> <p>2.3 土木学会としての重点課題</p> <p>社会への直接的貢献</p> <p>土木学会は、調査研究活動と共に社会に直接貢献する活動も推進する必要がある。具体的には、関係学協会、NPOと連携した災害時の調査とそれに基づく復興計画への提言等を引き続き、着実に進めることが重要である。また、支部活動を通じて自治体の教育委員会と連携し小中学校の総合学習への教育支援を強化していく必要がある。<u>さらに、土木界の男女共同参画を推進するため、土木学会として主導的役割を果たしていく必要がある。</u></p> <p>3. JSCE2010</p> <p>3.1 土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能</p> <p>土木学会の目的はその定款第4条によれば「土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質の向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与すること」である。この目的を達成するための使命は次の3つから構成される。</p> <p>学術・技術の進歩への貢献</p> <p>国内・国際社会に対する責任・活動</p> <p>技術者資質と顧客満足度(CS)の向上</p>

出典：参考文献4)より抜粋。下線は男女共同参画小委員会による。

表-1.3 JSCE2010 における男女共同参画に関連する記述 (2/2)

3.3 国内・国際社会に対する責任・活動

d) 公正な立場からの専門的知見の提供

基本目標	2010 目標
d 1) 良質な社会基盤整備への 貢献	d 1-1) 活用される資格制度への改善
	d 1-2) 品質を確保した公共調達制度への技術支援強化
	d 1-3) 適正な社会決定プロセスの支援・提言
	d 1-4) 入札・契約制度の改善に対する提言
	d 1-5) 男女共同参画の推進
d 2) 土木技術者の社会貢献	d 2-1) 司法支援など社会的課題への対応
	d 2-2) 災害緊急体制の強化
d 3) 土木への理解の推進	d 3-1) 土木学会としての見解の明確化
	d 3-2) 技術のインタープリターとしての役割強化
	d 3-3) 市民や行政との連携、協働と社会教育等への貢献
	d 3-4) 学校教育（初等中等教育）への貢献
	d 3-5) 工業系の高校、高等専門学校、大学等の教育への貢献

d 1-5) 男女共同参画の推進 (担当: 教育企画部門)

多様な人材の参画、特に男女共同参画は今後の我が国に課された極めて重要な課題であり、土木界においても多様な人材の価値観や視点を踏まえた取組みが一段と重要性を増す中で重要課題と位置づけられる。このため男女共同参画について、率先して学会内外への啓発活動、他学協会との協働等を推進し、会員および組織運営・企画戦力等に関連した部門における女性比率の増加、男女ともに仕事を継続できる環境づくりに向けた調査・広報などを推進する。

(以下省略)

出典：参考文献 4)より抜粋。下線は男女共同参画小委員会による。

<参考文献>

- 1) 内閣府男女共同参画局：男女共同参画白書 平成 17 年版，p.18，2005
- 2) 文部科学省：第三期科学技術基本計画，http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kihon/06032816/001/001.htm
- 3) 日本学術振興会：「特別研究員 - RPD」事業，http://www.jsps.go.jp/j-pd/rpd_gaiyo.html
- 4) 土木学会：「JSCE2010 - 社会と世界に活かそう土木学会の技術力・人間力 - 」，2008 年 5 月

2 . 活動の概要

2.1 活動の状況

「ジェンダー問題検討特別小委員会」から「女共同参画小委員会」と名称を改め、委員の一部交替と補充を行い、男女共同参画小委員会の第一期活動を始めた。

土木学会会員を対象とした啓蒙活動として、土木学会全国大会での研究討論会を開催した。また、小委員会のホームページ (<http://www.jsce.or.jp/committee/education/gender/index.shtml>) を立ち上げ、活動の広報に努めた。2007 年度には、土木学会法人会員を対象とした男女共同参画に関するアンケート実施した。これらの活動が、JSCE2010 において重点目標の一つとして土木界における男女共同参画の推進が示されたことに結びついたものと考えられる。

土木学会外の活動としては、ジェンダー問題検討特別小委員会に引き続いて、男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟している。これにより他学協会との連携を図り、男女共同参画学協会連絡会が主催する男女共同参画学協会連絡会シンポジウムや女子中高生理系選択支援事業(女子高校生夏の学校、女子高校生ジュニア科学塾 in 関西)にも参加した。また、2007 年には、第 2 回「科学技術系専門職における男女共同参画学協会連絡会の大規模調査」にも参加し、土木学会会員にも協力をお願いした。

なお、本委員会の活動については、土木学会全国大会年次学術講演会および土木学会誌において報告している。その一覧を以下に示す。

- 1) 岡村美好, 小松登志子: 土木系分野におけるジェンダー問題の構造化の試み, 土木学会第 61 回年次学術講演会講演概要集, CS01-003, 2006 年 9 月
- 2) 岡村美好, 小松登志子: 女子中高生理系選択支援事業と男女共同参画小委員会の活動について, 土木学会第 62 回年次学術講演会講演概要集, CS01-005, 2007 年 9 月
- 3) 岡村美好: 第 5 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムで土木学会がビジュアル賞を受賞, 土木学会誌, 第 92 巻 12 月号, p.71, 2007
- 4) 岡村美好: 女子高校生夏の学校開催 講演, 実験, ポスター, キャリア相談で土木を PR, 土木学会誌, 第 92 巻 12 月号, p.71, 2007

2006 年 6 月 1 日から 2008 年 5 月 31 日までの活動期間内における活動状況は次頁のとおりである。

表-2.1 小委員会の活動状況

年	月 日	活動内容	備考
2006年	7月3日	第4期 第5回 男女共同参画学協会連絡会運営委員会参加	
	7月12日	平成18年度 第1回 教育企画・人材育成委員会参加	
	8月17～19日	「平成18年度 女子高校生夏の学校」(主催文部科学省他)参加	
	9月15日	「土木学会学術文化事業」助成金(25万円)獲得	配布資料として「Civil Engineerへの扉」500部購入
	9月20日	平成18年度 土木学会全国大会研究討論会 「土木はおもしろい! 私が土木技術者になった理由」開催	
	10月6日	男女共同参画学協会連絡会 第2回シンポジウム参加	
	12月18日	平成18年度 第2回 教育企画・人材育成委員会参加	
	12月21日	第1回 男女共同参画小委員会開催	
2007年	1月26日	第5期 第2回 男女共同参画学協会連絡会運営委員会参加	
	3月13日	第2回 男女共同参画小委員会開催	
	3月21・22日	「女子高校生ジュニア科学塾 2007 in 関西」参加	
	4月6日	第5期 第3回 男女共同参画学協会連絡会運営委員会参加	
	4月26日	第3回 男女共同参画小委員会開催	
	5月23日	平成18年度 第3回 教育企画・人材育成委員会参加	
	6月4日	第5期 第4回 男女共同参画学協会連絡会運営委員会参加	
	6月15日	第4回 男女共同参画小委員会開催	
	7月2日	平成19年度 第1回 教育企画・人材育成委員会参加	
	8月16～18日	「平成19年度 女子高校生夏の学校」(主催文部科学省他)参加	
	8月29日	第5回 男女共同参画小委員会開催	
	9月12日	平成19年度 土木学会全国大会研究討論会 「考えよう!土木技術者のワークライフバランス」開催	
	9月18日	第5期 第6回 男女共同参画学協会連絡会運営委員会参加	
	10月6日	男女共同参画学協会連絡会 第2回 シンポジウム参加	ポスターセッションでビジュアル賞を受賞
	10月	第2回「科学技術系専門職における男女共同参画実態調査」 (実施:男女共同参画学協会連絡会)参加	
10月	「男女共同参画に関わる土木学会法人会員アンケート調査(第1回)」 実施		
2008年	1月24日	第6期 第1回 男女共同参画学協会連絡会運営委員会参加	
	2月7日	第6回 男女共同参画小委員会開催 平成19年度 第2回 教育企画・人材育成委員会参加	
	3月15・16日	「女子高校生ジュニア科学塾 2008 in 関西」参加	
	4月21日	第7回 男女共同参画小委員会開催	

注:太字は、当小委員会主催の活動。

2.2 土木学会法人会員アンケート

男女共同参画小委員会では、2007年10月に、土木学会の法人会員を対象に「男女共同参画に関わる土木学会法人会員アンケート（第1回）」を実施した。調査結果は報告書として取りまとめ作業中であるが、速報を、全国大会の共通セッション「CS1 土木教育一般」において発表する予定である¹⁾。

以下に、上記アンケート調査報告書の一部を抜粋し、2007年度までの当委員会の活動を総括した提案として掲載する。ただし本項は2008年6月現在の内容であり、討論会開催時までに必要な変更が加えられる可能性がある。

（1）調査の背景と目的

土木学会は、2008年3月末日現在、正会員（個人）29,782名、学生会員5,699名を含む、36,672名を抱える学会である²⁾。女性会員の割合を見ると学生会員に占める女性会員は680名、11.9%であるが、正会員では628名、2.1%と割合は微増する傾向にはあるが、学生会員に占める割合に比べて格段に少ない。卒業後、「土木」から離れている女性が多いことが推察される。

一方、土木界においても「男女共同参画」「ワークライフバランス」「ダイバーシティ」など、複数の文脈で女性活用の方策が進められている。土木学会の教育・人材育成委員会に設けられた当小委員会「男女共同参画小委員会」も、土木界のこのような取り組みを推進するためのものである。

そこで、本調査は、雇用者である法人側の視点に着目し、土木界における男女共同参画の状況と課題を把握し、土木学会としての今後の対応を検討する際の基礎情報とすることを目的として実施した。調査の概要及び分析結果を本編に、詳細な結果については資料編に取りまとめる。

なお、本調査は、日本建築学会が2006年に実施した調査を参考に設計した。二つの学会に共通の、あるいは土木学会に固有の課題を把握することを目的としたものである。

（2）調査の概要

1）調査主体

男女共同参画小委員会に設置された調査WGが主体となり、男女共同参画小委員会及び土木学会事務局の協力のもとに実施した。

2）対象とその抽出

土木学会の法人の正会員のうち、土木学会の業種分類による「学校」「学協会」以外の分類を調査の対象とした。正会員（法人）は調査準備時点で1,278であったが、本店、支店、現場事務所等がそれぞれ登録している組織については、担当した調査ワーキンググループ（調査WG）の判断により、代表とみられる会員を抽出した。その結果、調査対象は713となった。

なお、対象とした組織に対しては、男女共同参画に関する取り組みを把握している方が回答するように依頼した。

3）調査方法

アンケート調査により実施した。依頼状及び調査票の見本を郵送し、土木学会のウェブサイトにおいて回答を受け付けた。土木学会事務局によるアンケート用CGIを使用している。郵送による依頼、ウェブサイトにおける回答という方式を採用したのは、下記の理由による。

- 各法人会員の代表者，あるいは窓口のメールアドレスの情報が得られなかった
- 調査項目が多いため，回答者が全体像を把握することが難しいと予想されたこと
- 回答内容を記録する必要があると考える回答者がいると予想されたこと

また，各種のメーリングリスト及び当委員会のウェブサイトにおいて，調査実施に関する告知を行った他，チラシ等を配布した．これらの資料については，資料編を参照されたい．

調査期間は2007年10月1日～11月15日の約1か月半である．当初，設定した期日を2週間，延長した．

4) 調査内容

本調査は，次の5部の構成とした．

- ・ 貴社・貴団体の基礎情報について
- ・ 採用・人事・処遇について
- ・ 休暇制度等について
- ・ 貴社・貴団体における男女共同参画に対する取り組みについて
- ・ 男女共同参画の推進に関する問題点等について

5) 回収率

713組織に回答を依頼し，138組織からの回答を得た．回答率は19.4%である．

(略)

(3) 調査結果

調査結果の概要を取りまとめる．詳細については，本報告書の資料編を参照されたい．

(以下，一部抜粋)

職位職階別職員数

土木学会に係る組織における，女性の組織のマネジメントへの関与の状況を見ると，全職員に占める女性の割合が11.7%に対し，管理職群では1.6%と10分の1に減少し，この割合は役員以上では，1.7%と変わらない．ただし，職員数が100人以上の69組織に限定すると0.8%となり，大規模な組織になればなるほど，女性の役員の割合が低いことがわかる．

表-2.2 職階別の女性の割合

職階	職員数 下段：女性	女性の割合	組織別		N
			Highest:	Average:	
全職員	269,158 31,624	11.7%	54.5%	13.8%	129
非管理職群	147,975 26,292	17.8%	100.0%	20.1%	132
管理職群	44,436 729	1.6%	16.7%	1.8%	113
役員以上	1,448 24	1.7%	33.3%	3.3%	99
役員以上 職員 100 人以上の 組織	1,240 10	0.8%	16.7%	1.1%	69

(4) まとめ

本調査から得られた知見を以下の3点にまとめた。なお、これらの知見は、第一期の委員会活動の成果として提言を作成する際の根拠の一つとしたものである。

土木系の女性技術職員の割合は、他の技術系に比べて低い

- 法人会員への調査によれば、土木系技術職員に占める女性の割合は 2.8%である。これは技術系職員 6.0%の半分程度の割合であり、土木系職員の男女割合は他の分野の技術系職員に比べてもバランスを欠いた構成である。

採用は雇用機会均等法の施行から

- 回答組織が男女共同参画に取り組み始めたきっかけとしては、「男女雇用機会均等法の施行」をあげる意見が多く、法整備が大きな影響を持ったことがわかる。
- 女性技術職員の採用は概して 1990 年代から始まっているが、まだ勤続年数が短いことから、実績が積み重なっていない状況にある。

女性技術職員採用にあたっての課題は「ロールモデルの不在」

- 女性の採用に関する問題点として認識されているのは、「モデルとなる女性上司のロールモデルがない」「在職期間が短い」「配属できる部署が限られる」などの項目があげられている。
- 課題として予想された「対外関係上女性を担当者にできない」「管理職に向かない」「物理的な職場環境の設備が困難である」などの項目については、回答は2割程度であった。
- なお、女性の技術系職員の採用にあたって認識されている問題点の傾向は、建築学会調査とも一致している。

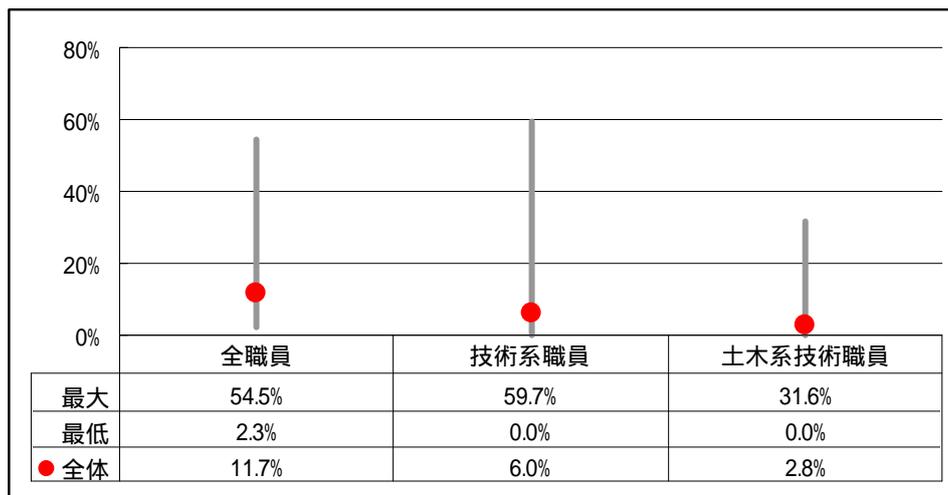
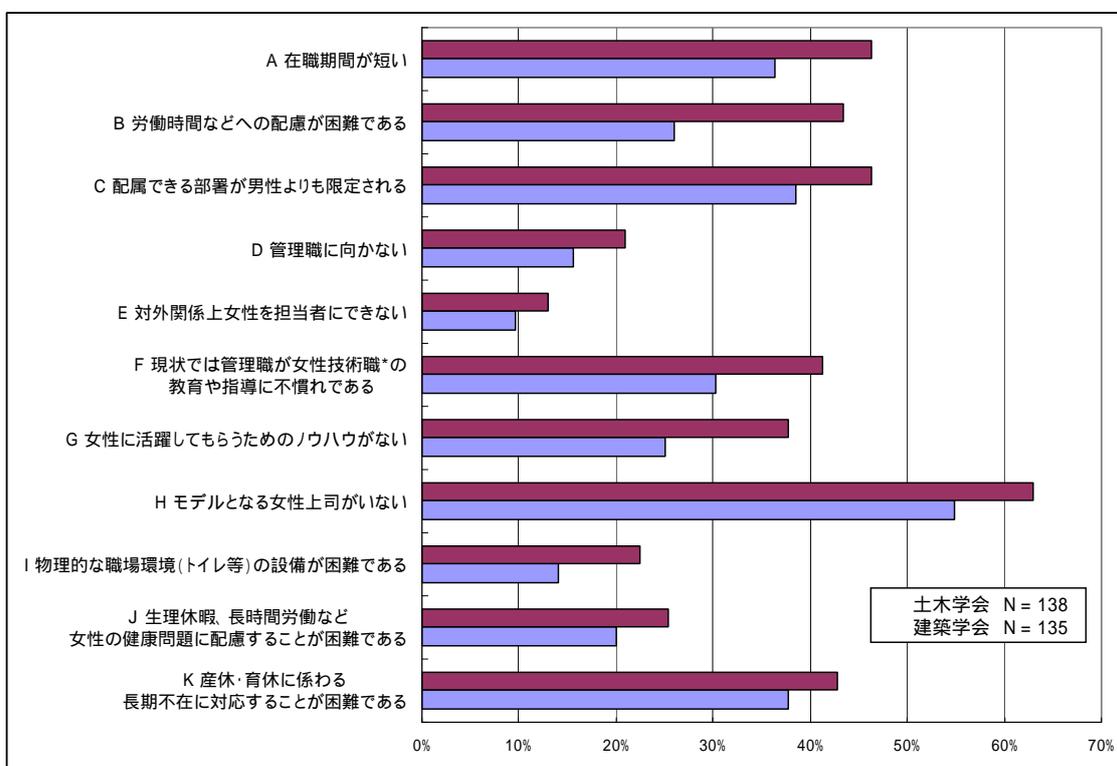


図-2.1 技術系職員に占める女性の割合



注：「非常に感じる」「感じる」の合計。

設問Fの「女性技術職*」は、土木学会調査では「女性土木技術職」、建築学会調査では「女性建築技術職」。

図-2.2 女性技術者採用に関する問題点（土木学会と建築学会の比較）

2.3 土木学会全国大会研究討論会

(1) 2006年度 研究討論会「土木はおもしろい！—私が土木技術者になった理由—」

日 時	2006年9月20日(水) 14:50~16:20	
場 所	立命館大学 びわこ・くさつキャンパスプリズムハウス P202	
座 長	岡村 美好	山梨大学大学院
話題提供者	日下部 治	東京工業大学大学院
	天野 玲子	鹿島建設株式会社
	渡邊 弘子	月の泉技術事務所
	島村 亜紀子	前田建設工業株式会社
	田畑 美紀	山口大学大学院
参 加 者	約80名	

概要：

最近、工学系学科への進学率が低下する中で、土木系学科で学ぶ女子学生や若手の女性土木技術者は年々増えている。しかし、大学や職場においてロールモデルとなる先輩女性が不在の場合も多く、女子学生や若手女性技術者が将来に不安を感じる要因ともなっている。そこで、現場で活躍する女性土木技術者と女子学生を話題提供者として迎え、土木の魅力、学生時代と職場での女性への対応への違い、就職活動での苦勞、仕事を続けるうえでの苦勞などについて語り合った。会場からも活発な質疑が寄せられた。最後に話題提供者から女子学生・女性技術者に送るメッセージをいただいて閉会した。



図-2.3 研究討論会の様子(2006年度)

(2) 2007 年度 研究討論会「考えよう！土木技術者のワークライフバランス」

日 時 2007年9月12日(水) 16:40～18:10
場 所 広島大学 東広島キャンパス 総合科学部 K108
座 長 岡村 美好 山梨大学大学院
話題提供者 矢島 洋子 三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
畠中 真一 川田工業株式会社
堀越 研一 大成建設株式会社
参 加 者 約30名

概要：

3つの話題提供；「仕事と家庭の調和(ワークライフバランス)」(矢島洋子氏)，「育休おやじの思うところ—遠慮するなよ，その気があれば育休は取れる—」(畠中真一氏)，「土木技術者から見た現状と課題に関して」(堀越研一氏)の後，主に「土木の現状と問題点」および「土木で進めるワークライフバランス」の観点から討議が行われた．そこでは，

- ・ 受注側も発注側も長時間労働が常態化しており，ワークライフバランスが確保されているとは言えず，産官学一体となった取り組みが必要である．
- ・ ワークライフバランスは，企業に余裕があるから取り組むのではなく，無理・無駄を減らすために実施することにつながる．そのためには，多様な働き方をする人たちを多様な状況に対してアサインするなど，現場のマネージが重要となる．

などの意見が出された．



図-2.4 研究討論会の様子(2007年度)

2.4 その他

(1) 男女共同参画学協会連絡会による大規模アンケート

土木学会がオブザーバー加盟している男女共同参画学協会連絡会が2007年に実施した、第2回「科学技術系専門職における男女共同参画実態調査」に参加し、土木学会会員にも協力を呼びかけた。アンケート結果は2008年に公表される。

男女共同参画学協会連絡会より土木学会会員の回答データが得られているので、今後は、これらについて分析を行い、他学協会の結果との比較、問題点の抽出などを行う予定である。

(2) 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

毎年開催されている男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加し、土木学会の活動報告とポスター展示を行った。2007年にはポスター展示でビジュアル賞を受賞した。

第4回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「育て、女性研究者!!理工系研究者支援の新しい波」

開催日：2006年10月6日（金） 場所：東京大学 山上会館

第5回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「真の男女共同参画に向けて意識を変えよう！」

開催日：2007年10月5日（金） 場所：名古屋大学 野依学術交流館・野依記念物質科学研究館

土木学会 Japan Society of Civil Engineers
(http://www.jsce.or.jp/)

◆ **男女共同参画の状況**

1914年 土木学会設立
1952年 土木学会誌 特集「女性技術者登場」掲載
1996年 土木学会誌（別冊増刊）「土木と女性技術者」掲載
2004年 ジェンダー問題検討特別小委員会発足
2005年 学会役員に初の女性理事1名選出（役員数32名）
2006年 土木学会誌編集委員長に女性が就任
男女共同参画小委員会発足（ジェンダー問題検討特別小委員会が名称変更）
土木学会誌 特集「女性技術者が土木を変えよう！～加速する男女共同参画～」掲載

◆ **男女共同参画小委員会の活動**

- 平成17年度土木学会全国大会研究討議会「CSR（企業の社会的責任）と男女共同参画社会の実現」の開催（平成17年9月8日、早稲田大学西早稲田キャンパス）
- ジェンダー問題検討特別小委員会報告書作成
- 平成18年度女子高校生夏の学校（ポスターセッション、ペーパーブリッジコンテスト）への協力（平成18年8月17～19日、国立女性教育会館）
- 平成18年度土木学会全国大会研究討議会「土木はおもしろい！～私が土木技術者になった理由～」の開催（平成18年9月20日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス）

	総数	男性数	女性比率
個人正会員	21,290	474	1.5
学生会員	5,071	463	8.1
合計	26,321	937	2.6

図-2.5 ポスター（2006年度）

土木に新しい風を吹き込もう!

◆ **男女共同参画の状況**

1914年 土木学会設立
1952年 土木学会誌 特集「女性技術者登場」掲載
1996年 土木学会誌（別冊増刊）「土木と女性技術者」掲載
2004年 ジェンダー問題検討特別小委員会発足
2005年 学会役員に初の女性理事1名選出（役員数32名）
2006年 土木学会誌編集委員長に女性が就任
男女共同参画小委員会発足（ジェンダー問題検討特別小委員会が名称変更）
土木学会誌 特集「女性技術者が土木を変えよう！～加速する男女共同参画～」掲載

◆ **男女共同参画小委員会の主な活動**

土木学会全国大会研究討議会の開催
→ 平成17年度 早稲田大学西早稲田キャンパス
→ 平成18年度 国立女性教育会館
土木学会に所属する女子高校生夏の学校への協力
→ 平成18年度 国立女性教育会館
→ 平成19年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 平成20年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 平成21年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 平成22年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 平成23年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 平成24年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 平成25年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 平成26年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 平成27年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 平成28年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 平成29年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 平成30年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和元年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和2年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和3年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和4年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和5年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和6年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和7年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和8年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和9年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和10年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和11年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和12年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和13年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和14年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和15年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和16年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和17年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和18年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和19年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和20年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和21年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和22年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和23年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和24年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和25年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和26年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和27年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和28年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和29年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和30年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和31年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和32年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和33年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和34年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和35年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和36年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和37年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和38年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和39年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和40年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和41年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和42年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和43年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和44年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和45年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和46年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和47年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和48年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和49年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和50年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和51年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和52年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和53年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和54年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和55年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和56年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和57年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和58年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和59年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和60年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和61年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和62年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和63年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和64年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和65年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和66年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和67年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和68年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和69年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和70年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和71年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和72年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和73年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和74年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和75年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和76年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和77年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和78年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和79年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和80年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和81年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和82年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和83年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和84年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和85年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和86年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和87年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和88年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和89年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和90年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和91年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和92年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和93年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和94年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和95年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和96年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和97年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和98年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和99年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
→ 令和100年度 立命館大学びわこ・くさつキャンパス

図-2.6 ポスター（2007年度、ビジュアル賞受賞）

(3) 女子中高生理系選択支援事業

男女共同参画学協会連絡会が主催している以下の女子中高生理系選択支援事業に参加した。

<2006 年度>

「女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」(2006年8月17～19日)

講演：「山の神は本当に怒るの？」天野玲子氏(鹿島建設(株))

ポスター展示・キャリア相談：「土木(Civil Engineer)の仕事」依田照彦氏(早稲田大学)

実験教室：「ペーパーブリッジコンテスト～少ない材料で強い橋を作ろう～」

岡村美好(山梨大学大学院)

「女子高校生ジュニア科学塾2007 in 関西」(2007年3月21・22日)

ポスター展示・キャリア相談：「土木(Civil Engineer)の仕事」幣守健氏(浅沼組)

<2007 年度>

「女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」(2007年8月16～18日)

講演：「あなたも『街づくり』の主演に！」松本香澄氏(武蔵村山市)

ポスター展示・キャリア相談：

「私達の暮らしを支える土木工学」秋元玲子氏(早稲田大学)・松本香澄(武蔵村山市)

実験教室：「構造物の形と強さ」岡村美好(山梨大学大学院)

「女子高校生ジュニア科学塾2007 in 関西」(2008年3月15・16日)

ポスター展示：「私達の暮らしを支える土木工学」

ポスターの製作やキャリア相談に関しては、教育企画・人材育成委員会の依田委員長、生涯教育小委員委員会の義武委員長、幣守委員、秋元委員(いずれも当時)にご協力をいただいた。



図-2.7 ポスター(2007年度)



図-2.8 参加者との懇談の様子(2007年度)

<参考文献>

- 1) 米山賢, 山田菊子, 桑野玲子: 土木学会法人会員の男女共同参画への取り組みに関する実態調査(速報), 土木学会全国大会, 2008(投稿中).
- 2) 土木学会: JSCE 土木学会誌 2008年5月号, Vol.93, No.5, p.87, 2008.

3. 提言

前項までに記したように、男女共同参画小委員会では2006年度、2007年度にわたり、多様な活動を行ってきた。これらの活動から得られた知見、イベント等における参加者からの意見を総合し、男女共同参画小委員会として土木学会に対し、以下の項目を提案する。

ステークホルダーの確認と役割分担

土木学会が関わる「男女共同参画」や「多様な人材の活用」の取り組みのステークホルダー（利害関係者）は、社会全般、土木界（産学官）、土木系技術者、そして新しくステークホルダーの仲間入りをする可能性のある学生や外国人、他分野の技術者や研究者などの「New Comer」であると考えられる。

一方、「男女共同参画」や「多様な人材の活用」に取り組む側には、男女共同参画、あるいは男女共同参画を含めるダイバーシティ・マネジメントの文脈で、同じような問題認識を持ち、取り組みを始めている土木技術者、技術者の組織などの個人の集まりや、日本建築学会、情報処理学会などの学会、学会や企業などの連合体である男女共同参画学協会連合会やJ-Winなどがあり、それぞれに活発な動きを行っている。

よって、土木学会は、このような土木界におけるステークホルダーを把握し、同じような取り組みを行っている組織とその動向を把握した上で、他の組織との役割分担を前提とした「選択、集中と協力」により、限られたリソースを有効に活用する方向を目指すべきであると考えられる。

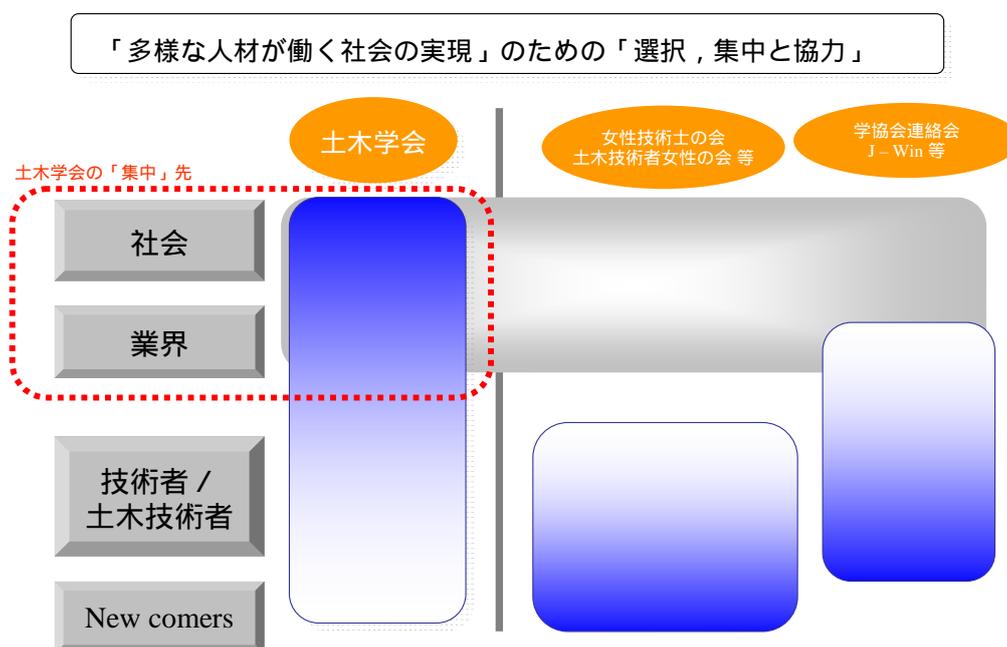


図-3.1 ダイバーシティ・マネジメントにおける土木学会の役割（案）

他の主体とのネットワーキングの推進

当小委員会では、法人会員に対するアンケート調査結果と、建築学会調査とを比較することにより、男女共同参画、特に女性技術系職員の採用に際して、共通の問題点があることを把握した。情報処理学会なども同様の問題意識のもと、ITダイバーシティフォーラム¹⁾の取り組みを行っている。

よって土木学会として、より効果的かつ効率的に、土木に関係する多方面の方々に、「男女共同参画」や

多様な人材の活用について働きかけ、発信を行っていくためには、これらの学会との情報交換、共有を積極的に進め、横断的に対応していくための人材、情報、行動のネットワーキングが不可欠である。

当小委員会が窓口となりオブザーバーとして参加している男女共同参画連絡会は、同様の学会との連携強化の取りかかりとしても有益である。

トップマネジメント層のリーダーシップによるダイバーシティ・マネジメントの実践へ

近年、社会経済活動における「男女共同参画」は、女性の参画だけでなく多様な人材の活用、すなわち「ダイバーシティ・マネジメント」の文脈で語られるようになった。ダイバーシティ・マネジメントを推進するには、各組織、土木学会のトップマネジメント層の強力なリーダーシップにより、組織の経営戦略として進めることにより、土木界に関わるすべての人の問題として認識されるようになることが期待される。

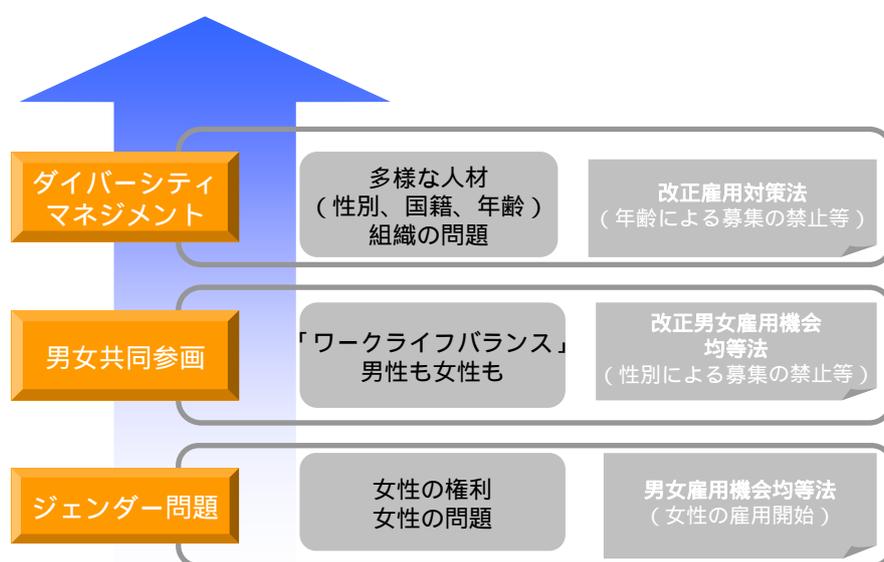


図-3.2 ジェンダー問題からダイバーシティ・マネジメントへ

男女共同参画、あるいは多様な人材の参画をめざす「ダイバーシティ」は、「女性の本気」だけの問題ではないとの指摘²⁾は的確である。「男女共同参画」に代表される「ダイバーシティ」への対応は、個人の努力だけではなく、組織、土木界の単位での問題意識の共有をもとに取り組むべき問題であることを、本報告書の末尾において提起したい。

<参考文献>

- 1) 小特集 女性たちが拓く IT --ITダイバーシティフォーラムより 情報処理2007年12月号 ,Vol.48 No.12 , 2007 .
- 2) 岡村美好：男女共同参画について考える - 10月号「忙中ペンありパート2」から - , 会員の声, 土木学会, 土木学会誌 2007年12月号, Vol.92-12, pp.79-80, 2007 .